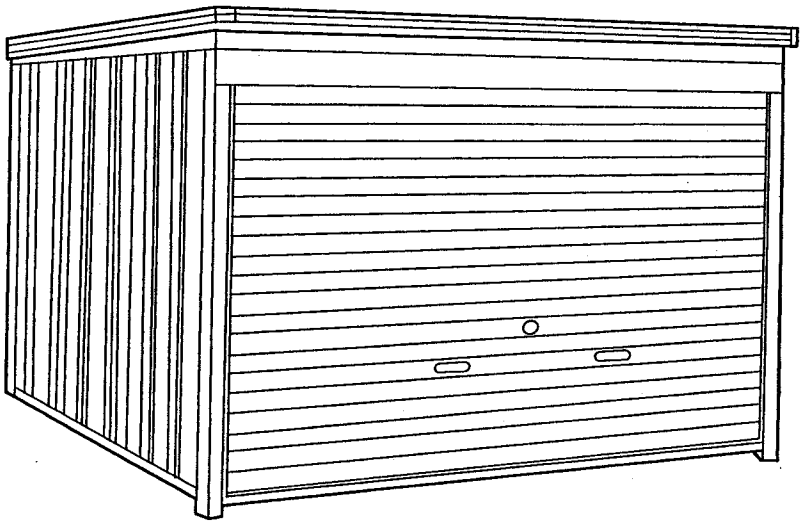
ダイケンシャッター物置
組立説明書
DM-BS 68・ 85・ 90
100・110・130型

- この度はダイケン物置をお買い上げいただきありがとうございます。
- 組み立ての前に必ず当説明書をよくお読みのうえ組み立てて下さい。
- 組み立て完了後組立説明書と取扱説明書は大切に保管して下さい。

製造番号	

〈完成図〉



株式会社ダイケン

組立上のご注意

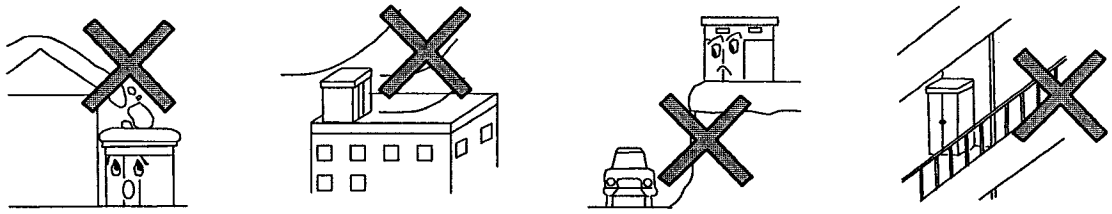
ダイケン物置 DM－BS型

1．次の場所には設置しないで下さい。

1） 屋根の雪などが落下する恐れのある場所
破損や倒壊などにより、ケガをしたり収納物に損害を与えることがあります。

2） ビルの屋上や、崖の淵など安全の確保出来ない場所
強風により転倒、破壊、部材の落下などによるケガや被害の可能性があります。

3）避難通路（ベランダなどの避難口）にあたる場所
非常の場合避難通路として使えなくなることがあります。



2．転倒防止のため所定の基礎工事は必ず行って下さい。

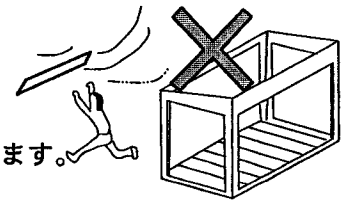
倒壊又は破損して、ケガをしたり収納物に損害を与えることがあります。

3．製品は必ず組立説明書に従って組み立て作業を行って下さい。

倒壊又は破損して、ケガをしたり収納物に損害を与えることがあります。

4．風の強い日は、施工を避けて下さい。

強風により部材の転倒による破損、または部材が飛んでケガなどの原因になります。



5．組立時は、手袋、長袖シャツなどの保護具を着用して下さい。

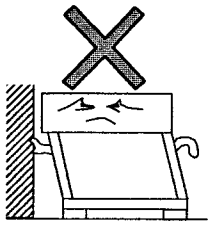
部材の角などで、ケガをする可能性があります。

6．重量部材（特に30kg以上）の運搬は、二人以上で行って下さい。

ケガをしたり、腰を痛めたりする可能性があります。

7．組立途中では放置しないで下さい。

（不安定な場合は支え柱またはロープなどで部材を固定して下さい。）
強風などにより飛散、転倒してケガや他に被害を及ぼす可能性があります。

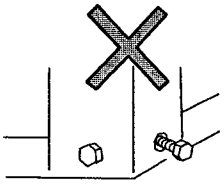


8．お客様が組立の場合は、二人以上で行って下さい。

一人で無理をされると、仮付け中の部材が倒れたり落下してきてケガをすることがあります。

9．組立後、ボルト・金具類の付け忘れや ゆるみがないか確認して下さい。

強度が確保出来なくなり、製品が倒壊、破損する可能性があります。



10．シャッターの組立は、組立説明書に従って作業を行って下さい。

スプリングの反発によりケガをしたり、収納物に損害をおよぼす事があります。

取扱上のご注意

1．物置の屋根に乗ったり、物を載せたり、ぶらさがったりしないで下さい。

転落によりケガをすることがあります。また物を載せると落下によるケガや破損の原因になります。

2．積雪時には次のことを行って下さい。

1）物置の積雪許容荷重は表のとおりです。表の積雪以下で早めに雪降ろしをして下さい。

	積雪許容荷重	雪降しのめやす
一般型	120kgf／㎡	40cm以下
多雪型	300kgf／㎡	100cm以下

許容荷重を越えた場合、物置の変形や破壊により、収納物の破損や人身事故につながる可能性があります。

2）雪降ろしの際は屋根に乗らないで作業して下さい。
足元が滑りやすい為、転落などの事故になる危険性があります。

3）物置の回りの雪も早めに取り除いて下さい。

3．みだりに製品の改造・変更はしないで下さい。

（電気配線などがご希望の場合は専門業者にご相談下さい。）
ケガまたは重大な事故につがる可能性があります。

4．棚の許容荷重以上には、物を載せないで下さい。また、物を載せる時は、静かに置いて下さい。

棚板型式	許容荷重
DMBS 7型棚板（幅400㎜× 716㎜）	1枚あたり＝60kgf以下
DMBS11型棚板（幅400㎜×1116㎜）	1枚あたり＝90kgf以下

棚板の型式と許容荷重を確認して下さい。
許容荷重は棚板前面に均等に物を載せた場合の荷重です。（1ヵ所に集中して載せないで下さい。）
許容荷重以上に載せると、棚が破壊したり変形して、物の転落によりケガや収納物の破損の原因となります。

5．シャッターの取扱説明書は、一緒に入っていますので、取扱説明書を十分に読み、理解して使用して下さい。

6．物置は本来品物の収納に使用される物です。他の目的（遊び場や住居の一部など）の為に使用しないで下さい。

ケガなどの事故につながることがあります。

7．物置の中では子供を遊ばせないで下さい。

ケガなどの事故につながることがあります。

8．床の許容荷重以上に物を収納しないで下さい。

床板の許容荷重（450kgf／㎡）です。
これ以上載せると床面が破壊したり変形して物の転倒によりケガなどの原因となります。
また、力が1点に集中すると床面を破損したり、転倒したりする恐れがありますので、20cm角以上の丈夫な板を下に敷いて下さい。

9．外壁などには物を立て掛けないで下さい。

強風などにより倒れて危険ですし腐食の原因になります。

10．つけもの、湿気を嫌うもの、生物、人形などの収納は、出来るだけ避けて下さい。

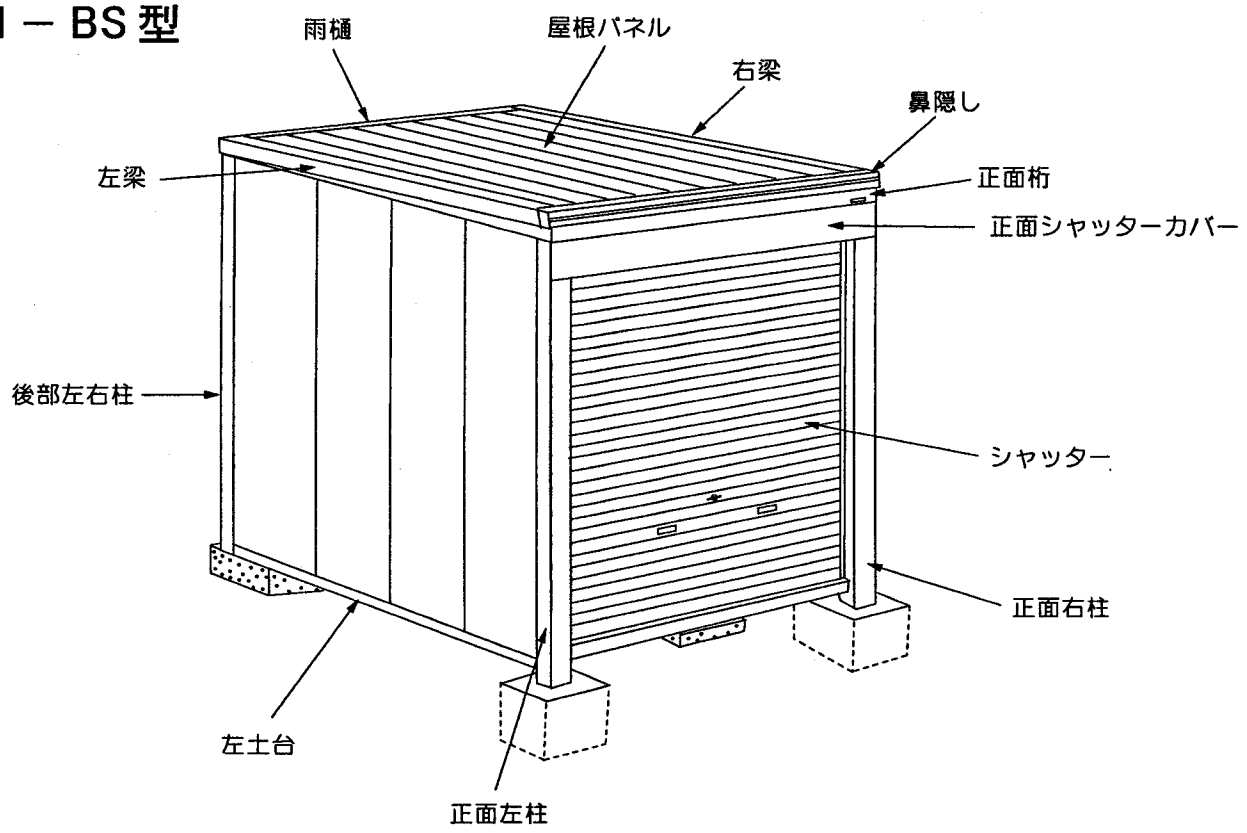
① 塩分は、サビの発生原因となります。漬物樽などは受け皿を使用してその上に置いて下さい。
② 熱や湿気を嫌うものは、段ボール箱やビニール袋などに入れて収納して下さい。
③ 夏の高温・多湿、冬の結露が原因で、変質・変色する恐れのあるものは収納しないで下さい。

11．お手入れ方法について

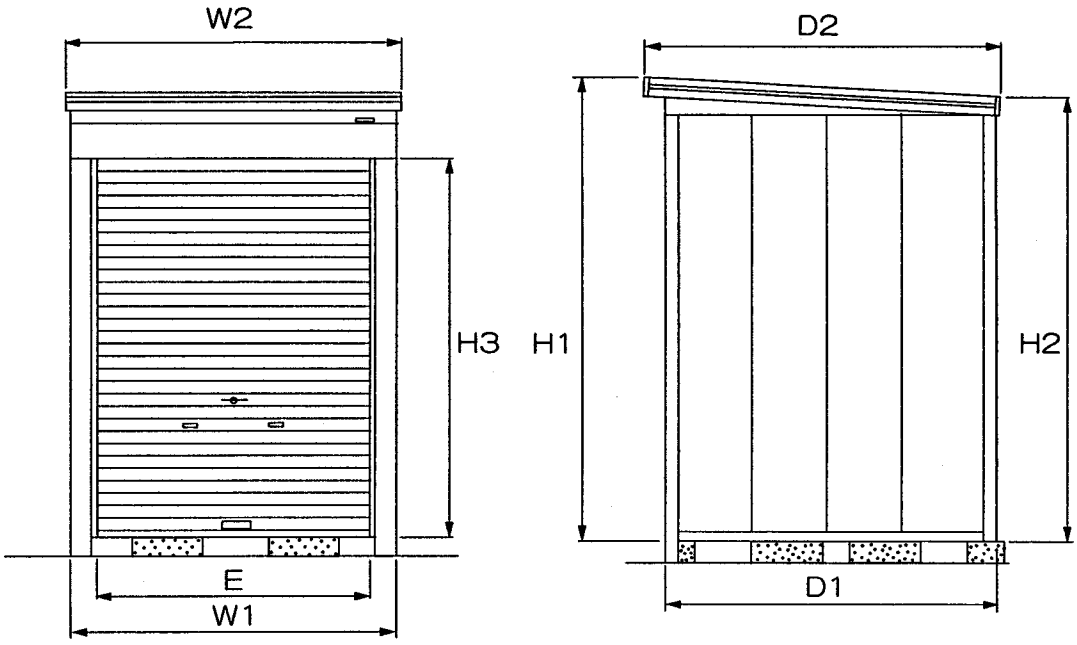
① 汚れたら水洗いやワックスがけなどをしましょう。
② 時々扉などを開けて、風通しを良くしましょう。
③ 屋根や雨樋には枯れ葉やゴミがたまります。定期的に掃除をしましょう。
④ ご使用が長期間になりますと、傷ついたりします。傷はなるべく早く補修するようにして下さい。
⑤ 錠の動きが鈍くなった時は、黒鉛粉または市販の潤滑剤を用いてお手入れをして下さい。
また、鍵を紛失された場合は錠の刻印番号でご注文下さい。

各部の名称

DM－BS型



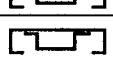
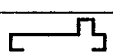
寸　法　図

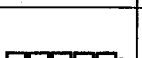


（E有効開口幅、H3は有効開口高さです）単位：mm

型　式	W1	W2	D1	D2	H1	H2	H3	E	面　積	
									㎡	坪
DM－BS 68型	1720	1780	1320	1477	2452	2350	2025	1460	2.27	0.68
90型	〃	〃	1720	1877	2450	2351	〃	〃	2.95	0.89
85型	2120	2180	1320	1477	2452	2350	〃	1860	2.79	0.84
110型	〃	〃	1720	1877	2450	2351	〃	〃	3.64	1.10
100型	2520	2580	1320	1477	2452	2350	〃	2260	3.32	1.00
130型	〃	〃	1720	1877	2450	2351	〃	〃	4.33	1.31

１セットの構成部品・梱包数

	梱包No.	梱包名	部材名	形状	数量					
					68型	85型	90型	100型	110型	130型
DM-BS専用梱包	①	棚板部品	棚板 7型		6	6	6	3	6	3
			棚板 11型		−	−	−	3	−	3
			部品袋		1	1	1	1	1	1
			母屋受袋		1	1	1	1	1	1
	②	間口部材	正面土台		1	1	1	1	1	1
			後部土台		1	1	1	1	1	1
			正面桁		1	1	1	1	1	1
			正面シャッターカバー		1	1	1	1	1	1
			鼻隠し		1	1	1	1	1	1
			雨樋		1	1	1	1	1	1
			床板押え		2	2	2	2	2	2
			後部横材		1	1	1	1	1	1
			後部桁		1	1	1	1	1	1
	③	奥行部材	左土台		1	1	1	1	1	1
			右土台		1	1	1	1	1	1
			左梁		1	1	1	1	1	1
			右梁		1	1	1	1	1	1
			左右横桟		2	2	2	2	2	2
	④	正面柱	正面左柱		1	1	1	1	1	1
			正面右柱		1	1	1	1	1	1
	⑤	後部柱	後部左右柱		2	2	2	2	2	2
			後部柱カバー		2	2	2	2	2	2
	⑥	シャッターケース	上ケース		1	1	1	1	1	1
			下ケース		1	1	1	1	1	1
	⑦	戸当り	戸当り		2	2	2	2	2	2
	⑧	ブラケット	左ブラケット		1	1	1	1	1	1
			右ブラケット		1	1	1	1	1	1
			吊元		2	2	2	2	2	2
			シャッター用ビス袋		1	1	1	1	1	1
	⑨	レール	左ガイドレール		1	1	1	1	1	1
			右ガイドレール		1	1	1	1	1	1
			引き棒		1	1	1	1	1	1
	⑩	シャフト	シャフト		1	1	1	1	1	1
	⑪	スラットセット	スラットセット		1式	1式	1式	1式	1式	1式
	⑫	吊元スラット	吊元スラット		1式	1式	1式	1式	1式	1式

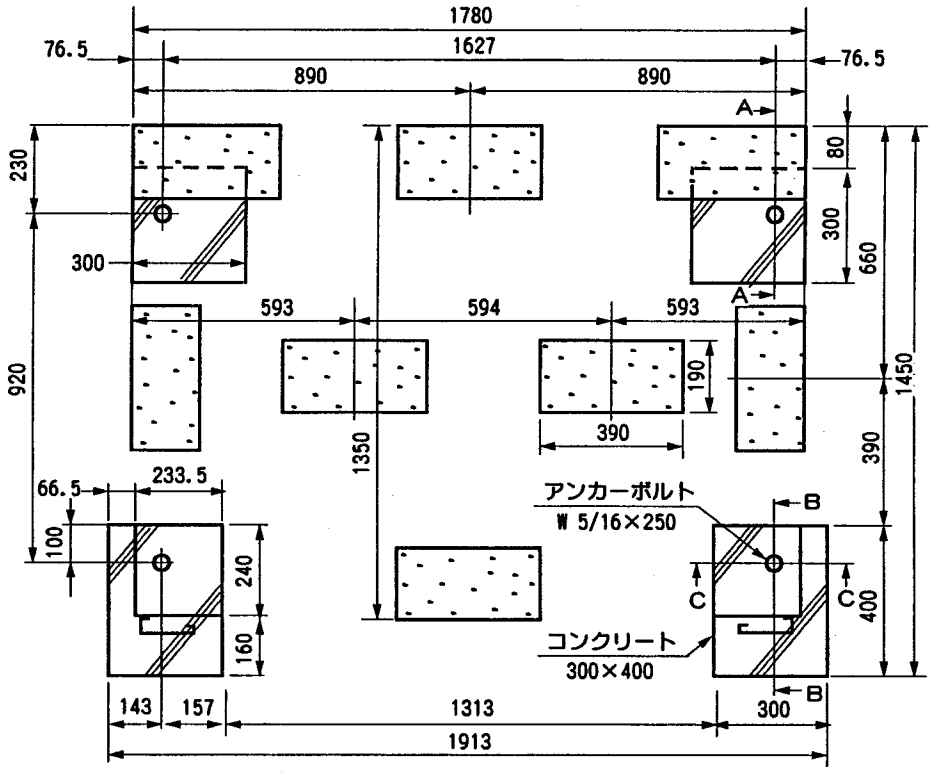
	梱包 No.	梱包	部材名	形状	数量					
					68型	85型	90型	100型	110型	130型
DM-Uの梱包を使用する	68型(DM-U 692 ⑤番) 85型(〃 852 ⑤番) 90型(〃 900 ⑤番) 100型(〃 1002 ⑤番) 110型(〃 1102 ⑤番) 130型(〃 1302 ⑤番)	母屋	母屋		1	1	1	1	1	2
			根太		1	1	2	2	1	2
	68型(DM-U 692 ⑨番) 85型(〃 852 ⑨番) 90型(〃 900 ⑨番) 100型(〃 1002 ⑩番) 110型(〃 1102 ⑨番) 130型(〃 1302 ⑩番)	屋根	屋根パネル		4	5	4	6	5	6
			屋根パネル小		1	1	1	1	1	1
	68型(DM-U 692 ⑩番) 85型(〃 852 ⑩番) 90型(〃 900 ⑩番) 100型(〃 1002 ⑪番) 110型(〃 1102 ⑩番) 130型(〃 1302 ⑪番)	床板	床板		4	5	4	6	5	3
			床板調整		1	1	1	1	1	—
	130型(DM-U1302 ⑫番)	床板	床板		—	—	—	—		3
			床板調整		—	—	—	—		1
DM-Bの梱包を使用する	68型(DM-B 50 ⑦番) 85型(〃 50 ⑦番) 90型(〃 60 ⑦番) 100型(〃 60 ⑦番) 110型(〃 50 ⑥番) 130型(〃 50 ⑥番)	壁パネル	壁パネル		5	5	6	6	4	4
	68型(DM-B 50 ⑦番) 85型(〃 60 ⑦番) 90型(〃 60 ⑦番) 100型(〃 60 ⑦番) 110型(〃 50 ⑥番) 130型(〃 50 ⑥番)	壁パネル	壁パネル		5	6	6	6	4	4
	110型(DM-B50 ⑦番) 130型(〃 60 ⑦番)	壁パネル	壁パネル		—	—	—	—	5	6
	(各型式) DM-B50型 ⑧番	棚柱	棚受支柱(中)		1	1	1	1	1	1
			棚受支柱(左)		1	1	1	1	1	1
			棚受支柱(右)		1	1	1	1	1	1
			支柱 横桟		4	4	4	4	4	4
			支柱 横桟(中)		2	2	2	2	2	2
			前支柱		2	2	2	2	2	2
			前支柱(中)		1	1	1	1	1	1
			棚柱用部品袋		1	1	1	1	1	1

多雪型の場合は、DMU⑤番母屋梱包が下記の梱包と差し換えとなります。

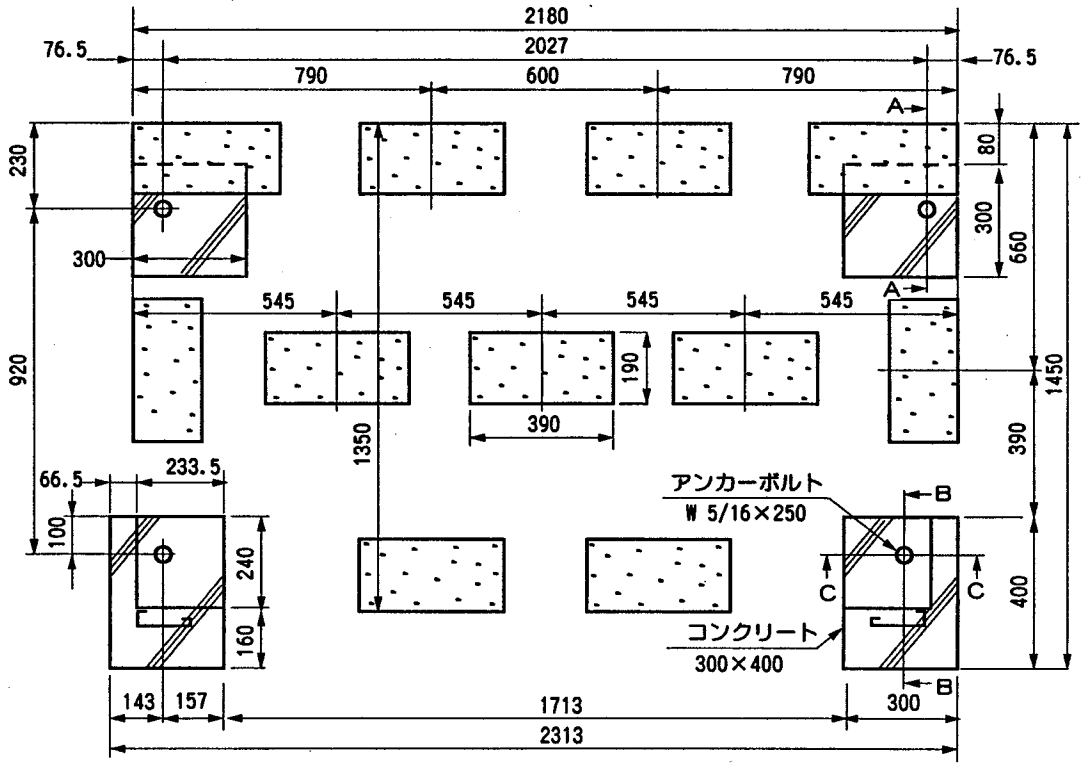
DM-Uの梱包を使用する	68型(DM-U 692 ⑤番) 85型(〃 852 ⑤番) 90型(〃 900 ⑤番) 100型(〃 1002 ⑤番) 110型(〃 1102 ⑤番) 130型(〃 1302 ⑤番)	耐雪母屋	耐雪母屋		1	1	1	1	1	2
			根太		1	1	2	2	1	2

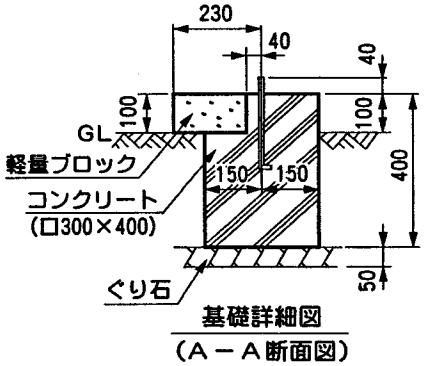
基礎・ブロック施工

68型

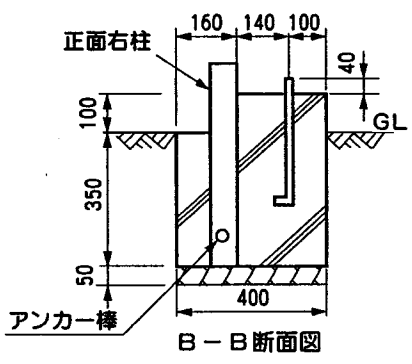


85型

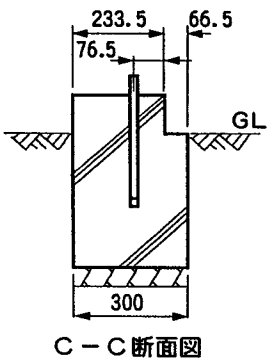




基礎詳細図
(A－A断面図)

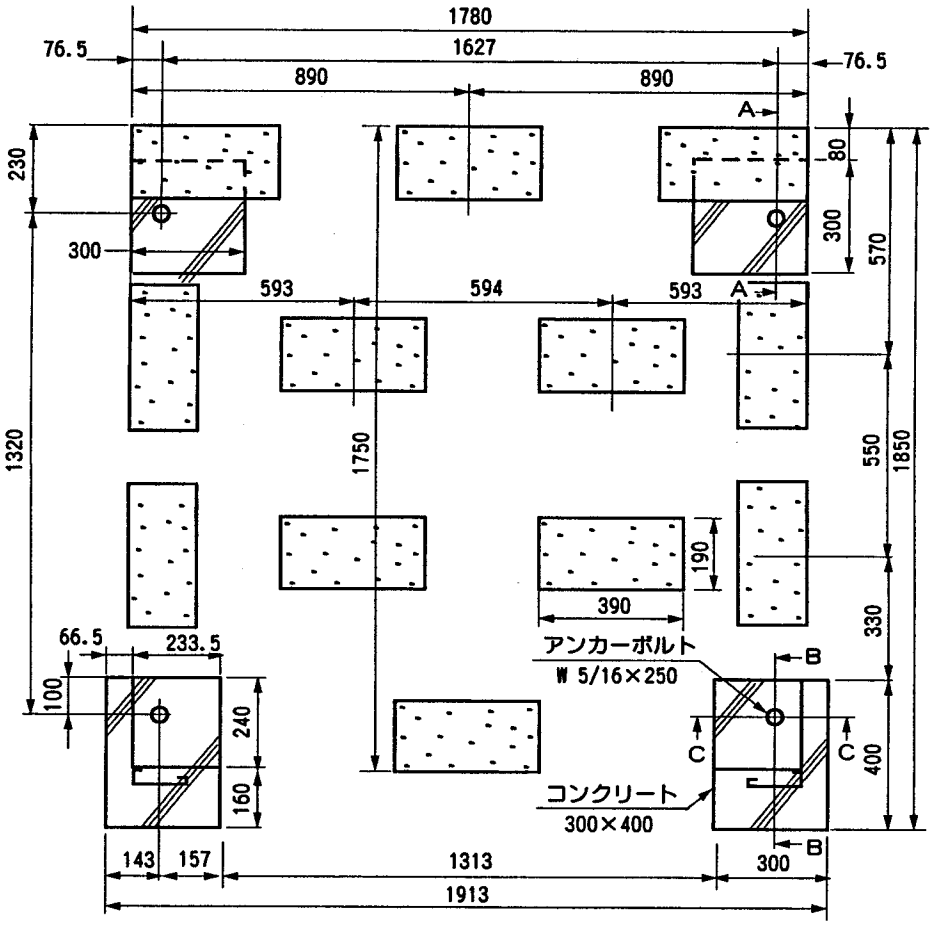


B－B断面図

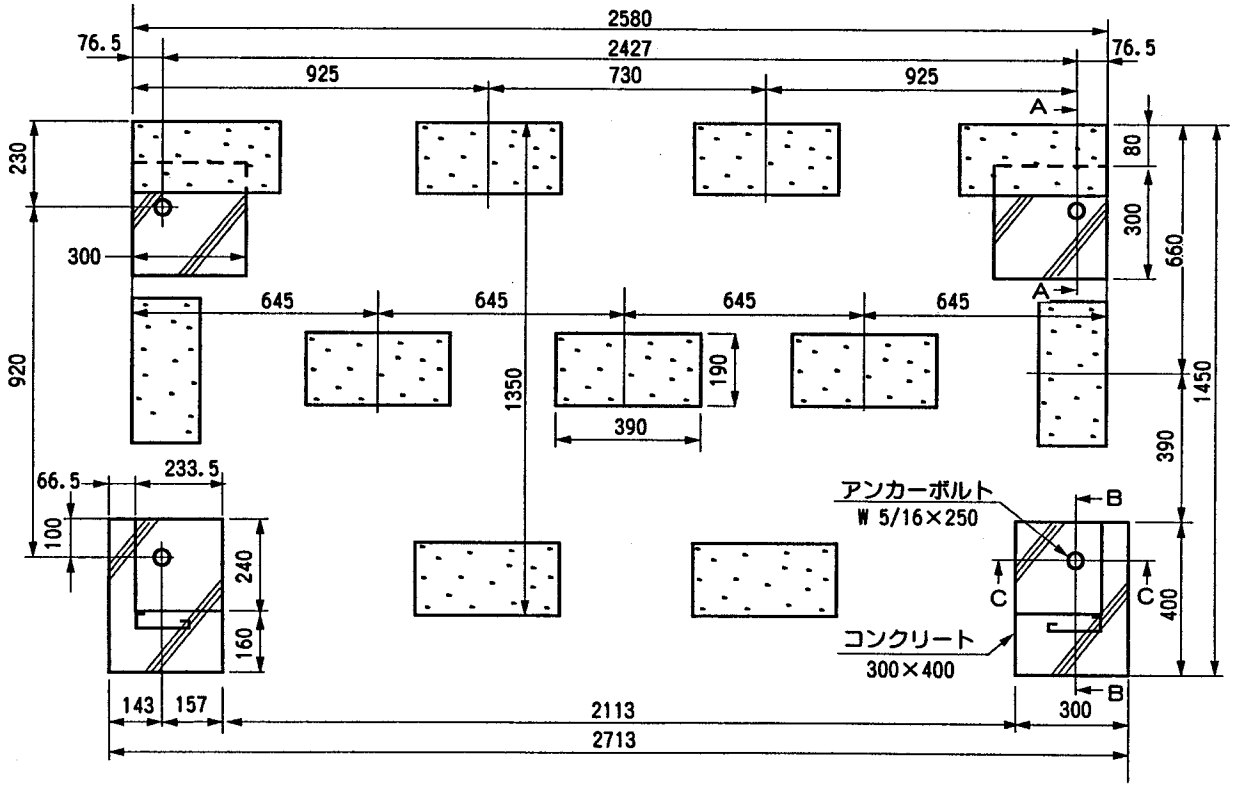


C－C断面図

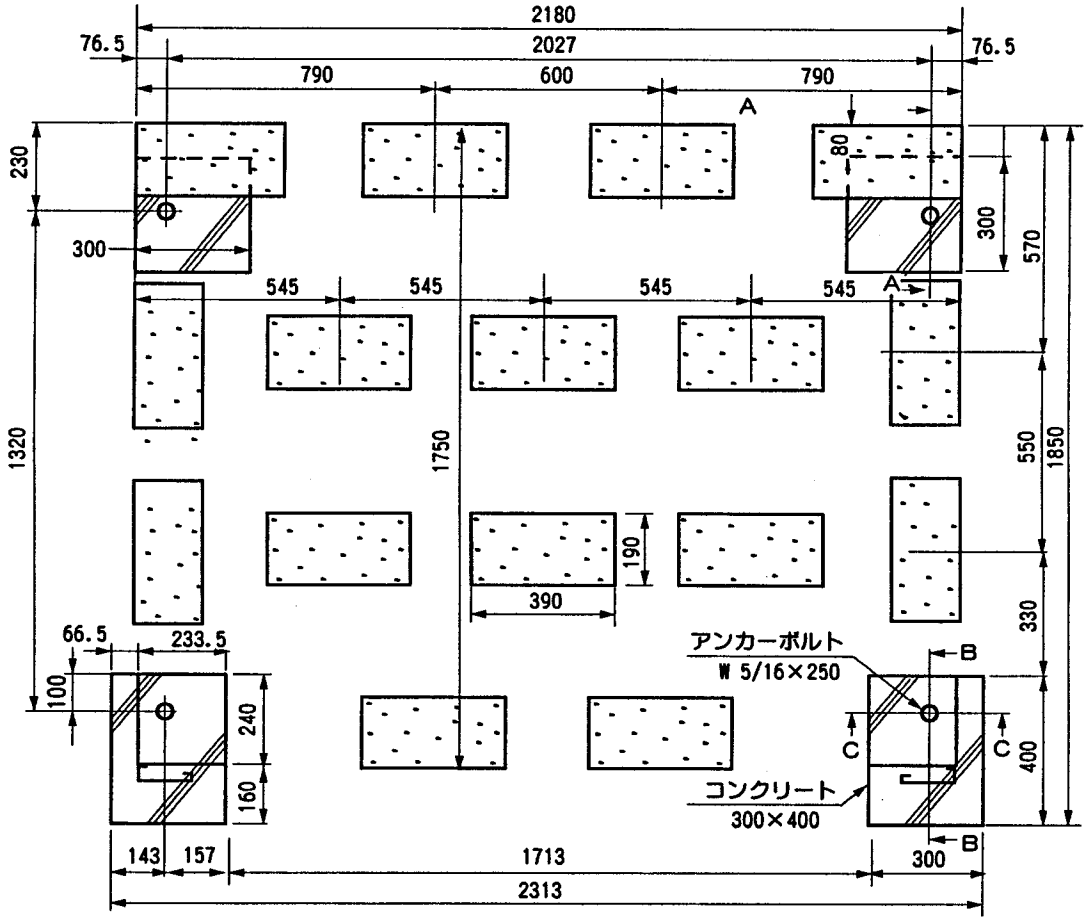
90型


1780
76.5
1627
76.5
890
890
A
230
80
300
570
300
593
594
593
A
1320
1750
550
1850
190
390
330
66.5
233.5
アンカーボルト
W 5/16×250
B
100
240
160
C
C
400
コンクリート
300×400
B
143
157
1313
300
1913

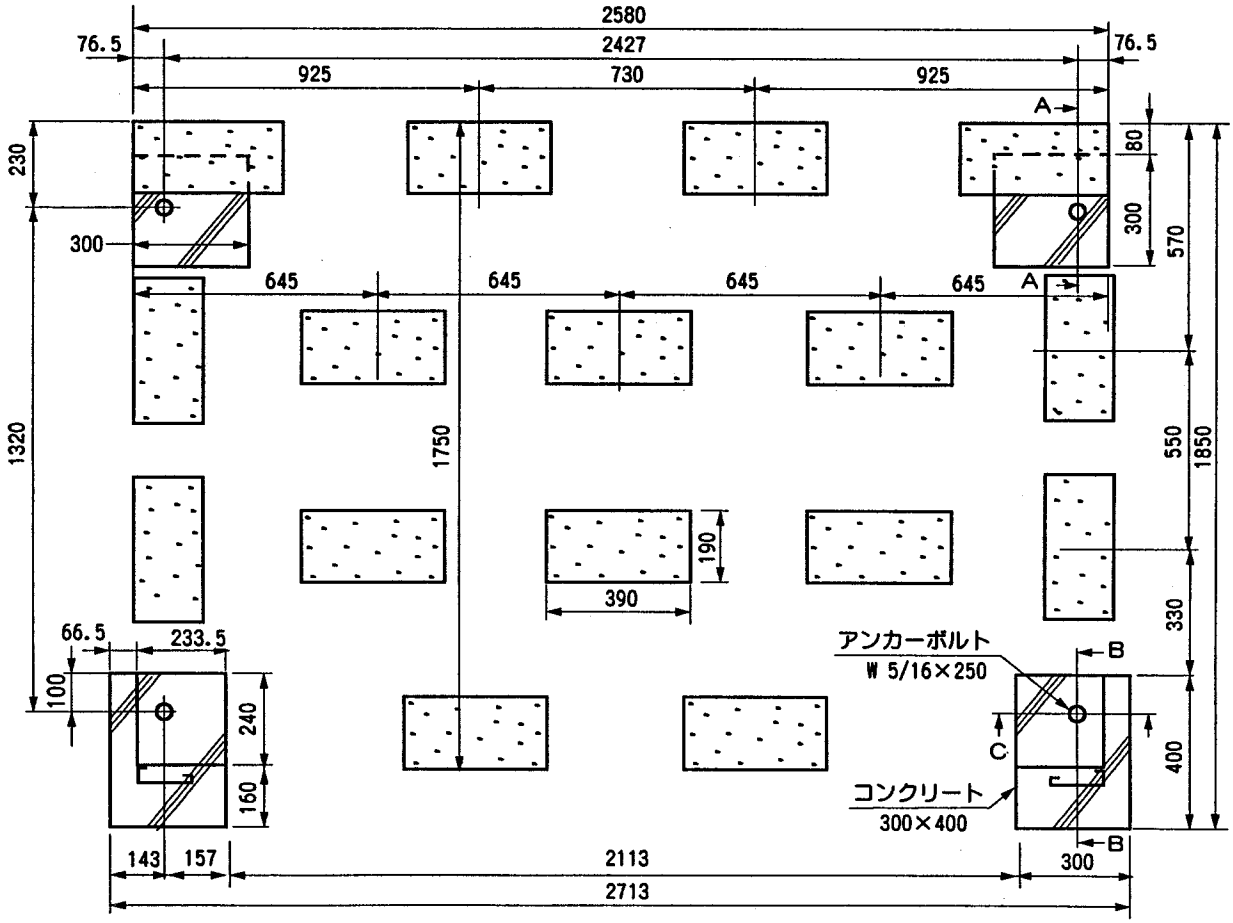
100型


2580
76.5
2427
76.5
925
730
925
A
230
80
300
660
300
645
645
645
645
A
920
1350
190
1450
390
390
66.5
233.5
アンカーボルト
W 5/16×250
B
100
240
160
C
C
400
コンクリート
300×400
B
143
157
2113
300
2713

110型

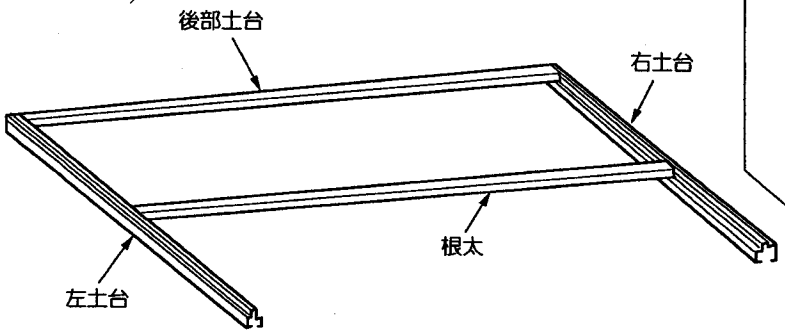

2180
76.5
2027
76.5
790
600
790
A
230
80
300
570
300
545
545
545
545
A
1320
1750
550
1850
190
390
330
66.5
233.5
アンカーボルト
W 5/16×250
B
100
240
160
C
C
400
コンクリート
300×400
B
143
157
1713
300
2313

130型

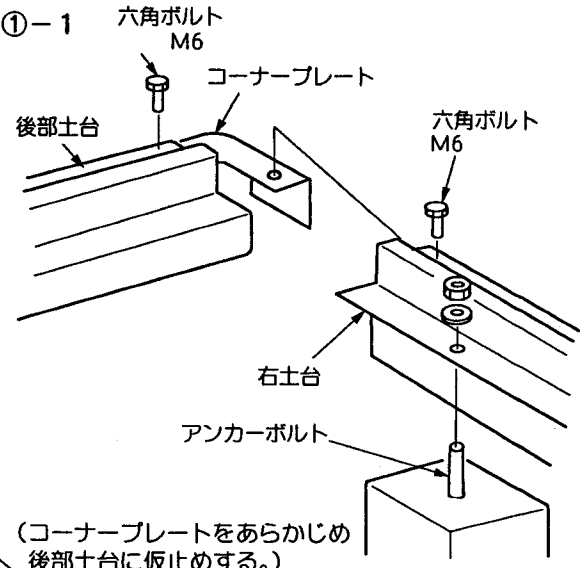

2580
76.5
2427
76.5
925
730
925
A
230
80
300
570
300
645
645
645
645
A
1320
1750
550
1850
190
390
330
66.5
233.5
アンカーボルト
W 5/16×250
B
100
240
160
C
400
コンクリート
300×400
B
143
157
2113
300
2713

① 土台の組立

組立は番号順に行なって下さい。

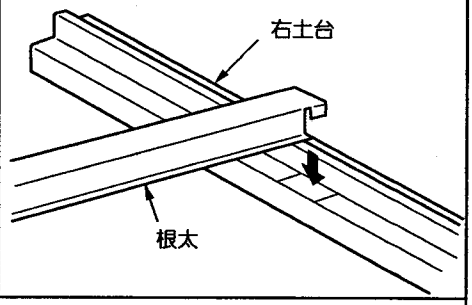


①－1



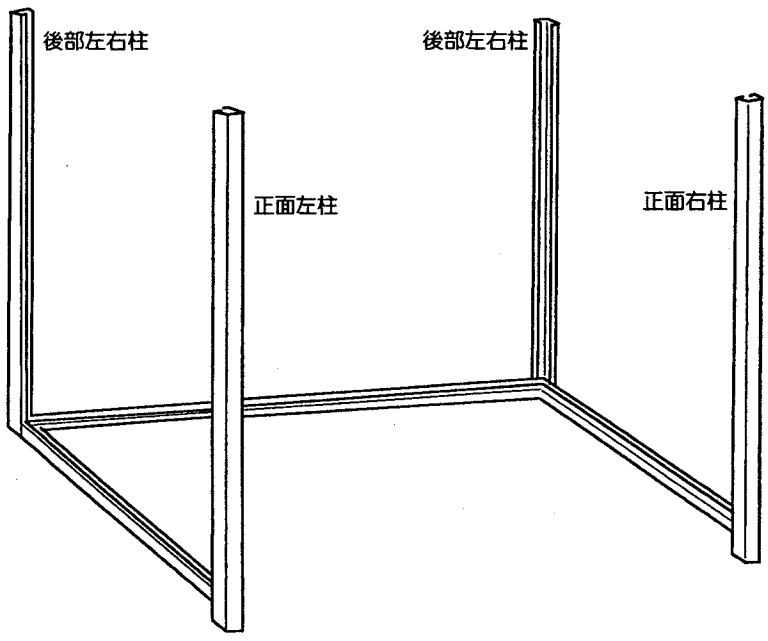
（コーナープレートをあらかじめ
後部土台に仮止めする。）

①－2

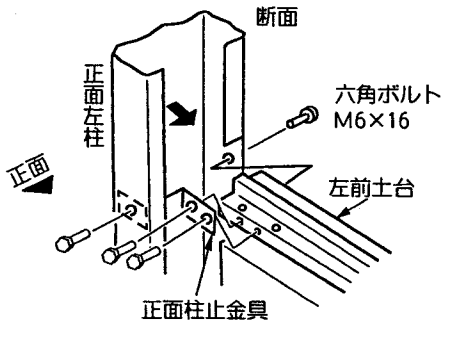


② 柱の組立

柱取り付け用のボルトは十分に締付けて下さい。



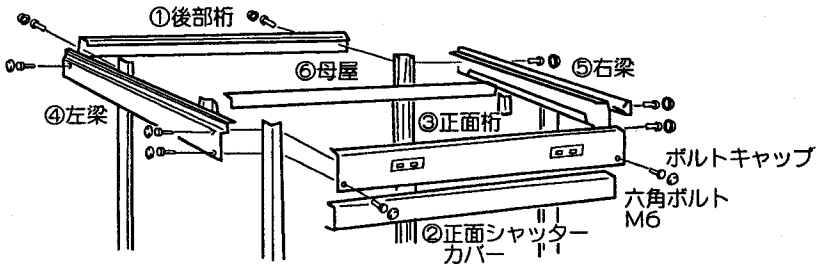
正面左柱の取りつけ



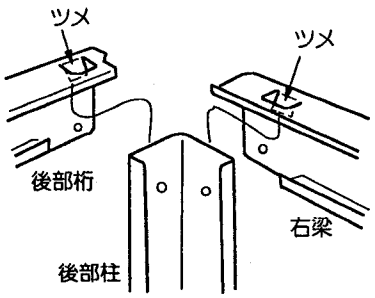
※柱にアンカー棒・正面柱止金具を
セット後、土台に止めて下さい。

③ 桁・梁・母屋の組立

組立は番号順に行なって下さい。

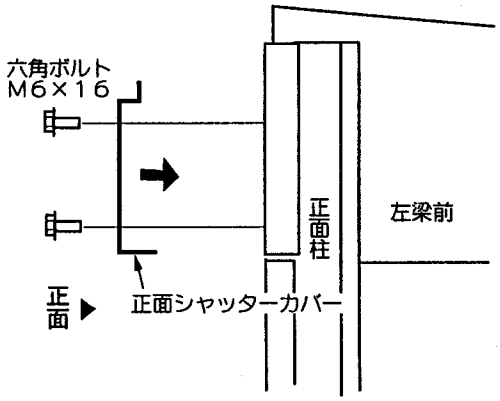


後部桁、左・右梁の両端のツメを柱の上に引っ掛けてからビス止めして下さい。

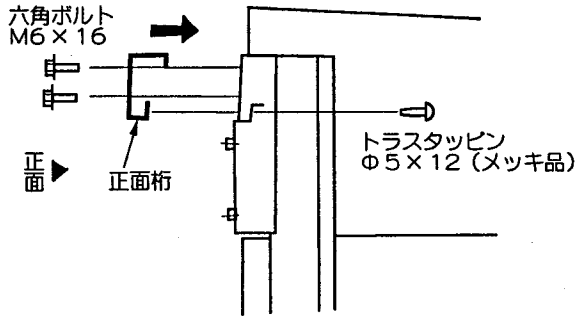


組立順序 ①→②→③→④→⑤→⑥

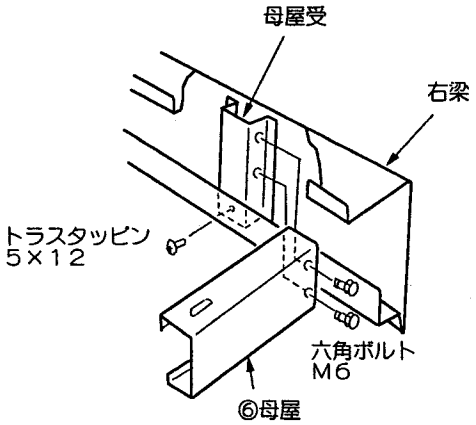
② 正面シャッターカバーの取付



③ 正面桁の取付



⑥ 母屋の取付



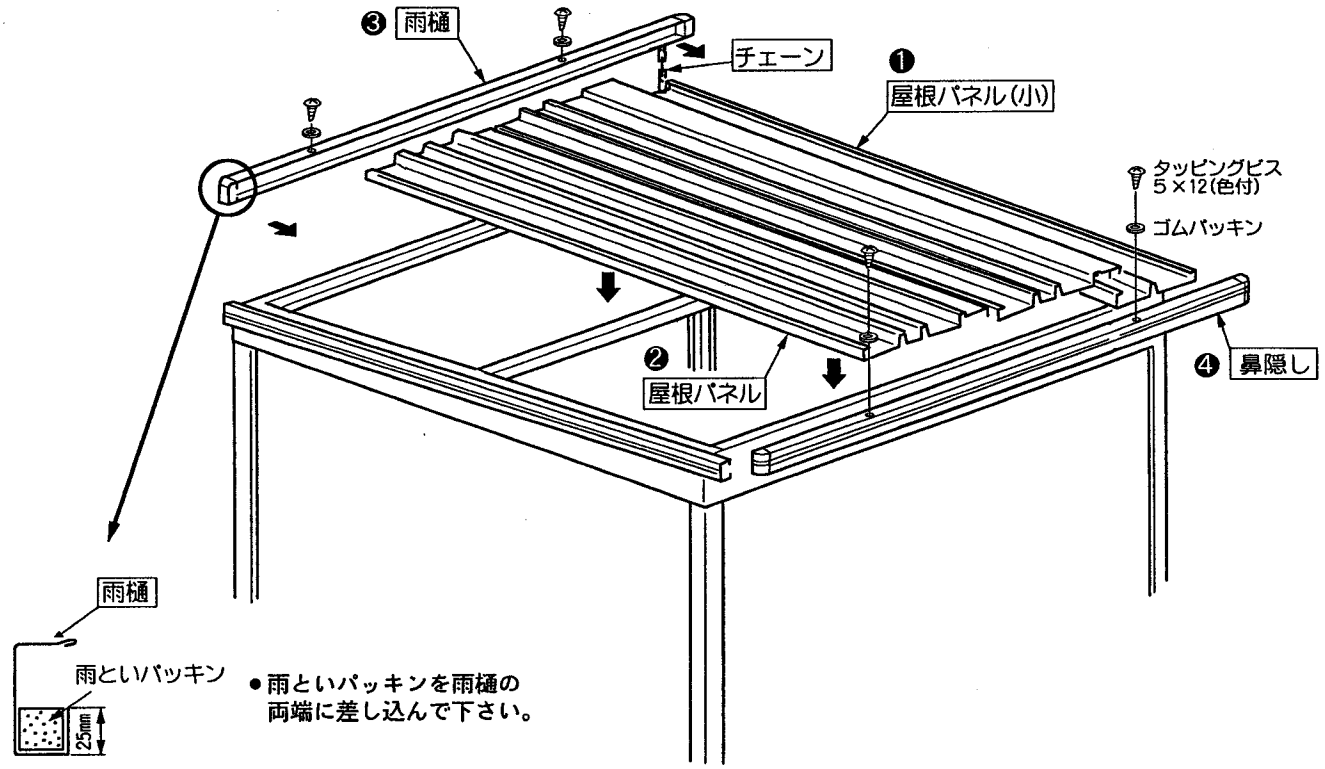
④ 屋根パネル・鼻隠し・雨樋の組立

取付手順

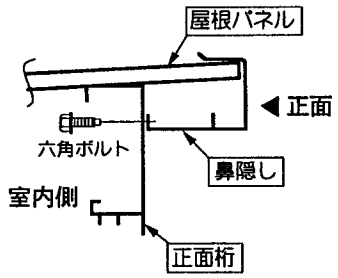
屋根パネル(小) ➡ 屋根パネル ➡ 雨　樋 ➡ 鼻 隠 し ➡ 屋 根 金 具

※右側から取付けて下さい。

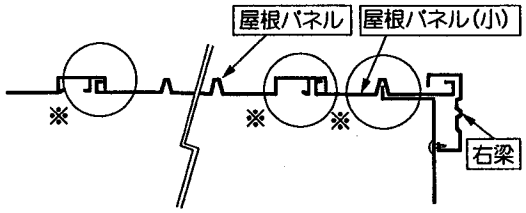
※取付後屋根パネルを雨樋の内側まで差込んで下さい。



● 正面上部

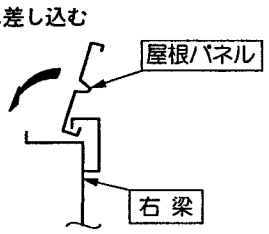


② 屋根パネル・屋根パネル(小)の納り



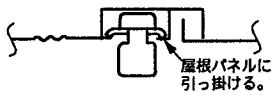
※必ず重なり方を確認して下さい。
重なりを間違いますと屋根金具が取り付けできなくなります。

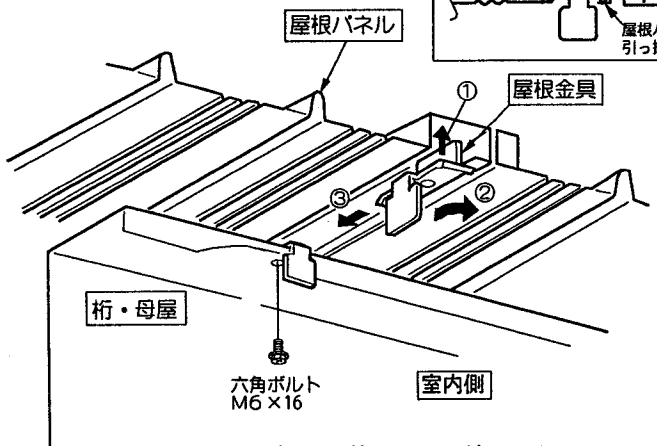
① 屋根パネル(小)と梁の納り



⑤ 屋根金具取付

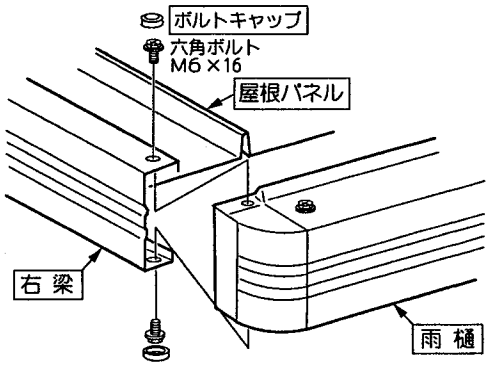
● 屋根パネル・屋根金具納り図





● 室内側(天井)から差し込み取付て下さい。
● 屋根金具の向きに注意して取付て下さい。

③・④ 雨樋・鼻隠しの取付

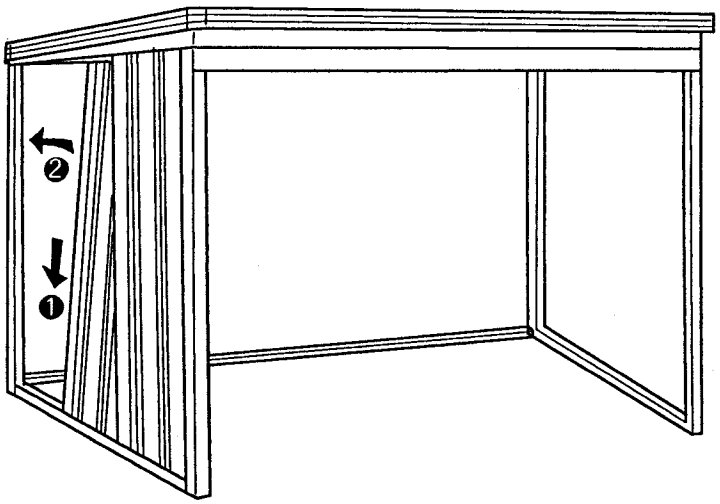


● 正面側の鼻隠しも同じ様に取付て下さい。
● 六角ボルト取付後ボルトキャップをはめ込んで下さい。

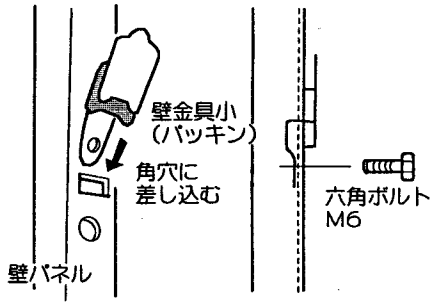
※（別売）結露防止材を取付の場合は屋根パネル取付後、結露防止材を貼付て下さい。

⑤ 壁パネルの組立

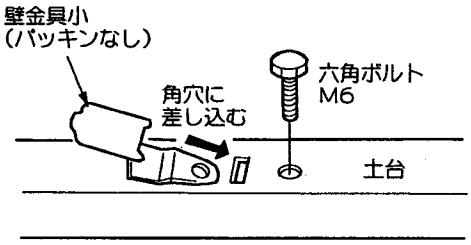
組立は番号順に行なって下さい。



⑤－1 壁と壁及び壁と柱の取付は
下図の様に壁金具小（パッキン付）
を使用ください。

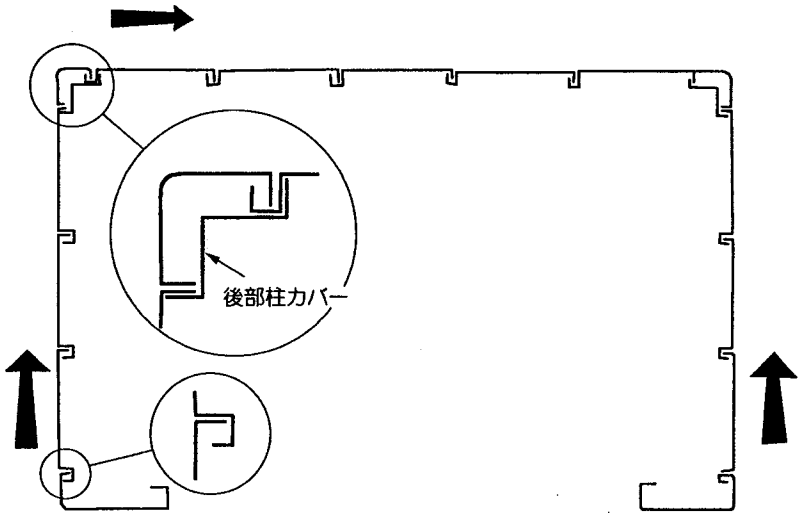


⑤－2 壁の上下（土台及び桁、梁）の
取付は下図の様にパッキンなし
の壁金具小を使用ください。



※ 矢印の方向に壁パネルを取付し向きに注意して下さい。

※型式により壁パネルの枚数が異なります。



壁金具は上下・左右全箇所取付して下さい。尚、共通性を持たせる為
壁パネルには取付穴があり、相手部材にない時は取付不要です。

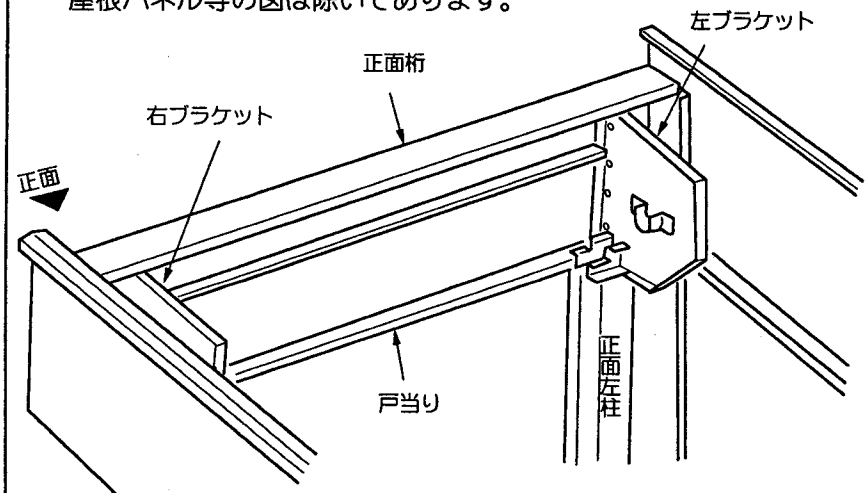
⑥ シャッターの組立

組立は番号順に行なって下さい。

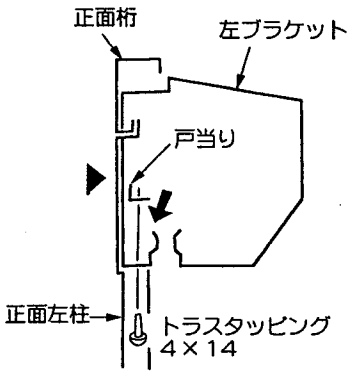
⑥－1 ブラケット・戸当りの取付

シャッター用ビス袋を使用(ブラケット梱包にあります)

※シャッターの取付をわかりやすくする為
屋根パネル等の図は除いてあります。

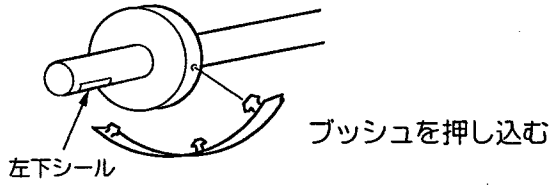


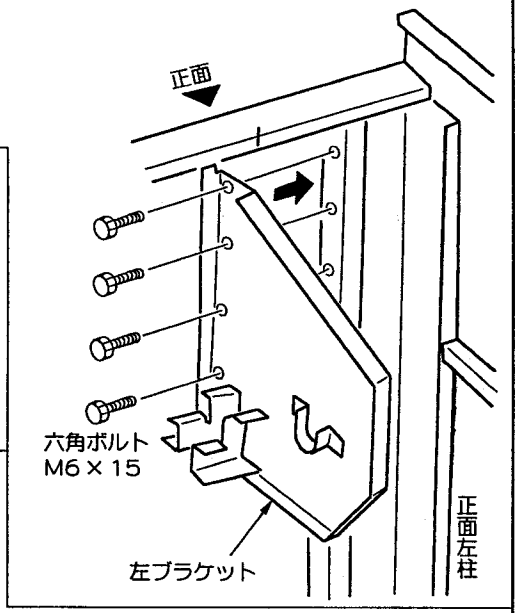
戸当りの取付



⑥－2 ホイールカバーの取付

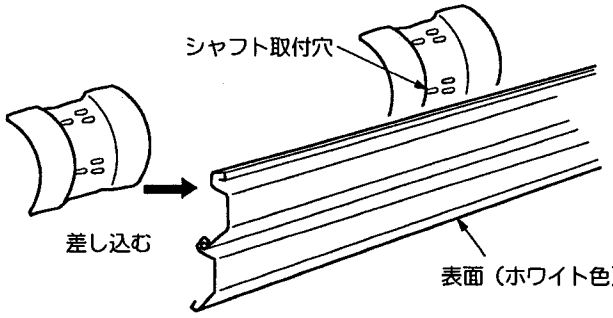
シャフトのホイールへホイールカバーを取付けます。

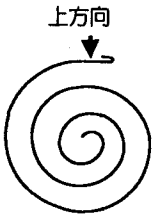




⑥－3 吊元の取付

吊元を吊元スラットセットへ取付ます。



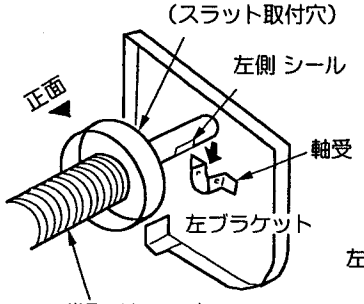


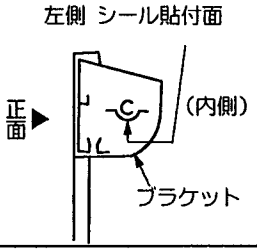
梱包状態は先端が上方向となっています。

警告　組立手順を守って下さい
はさまれ、ケガの恐れがあります。

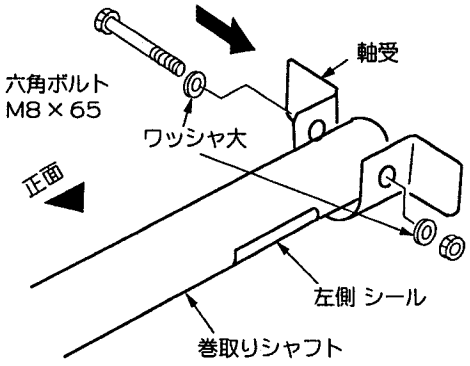
⑥－4 シャフトの取付

巻取りシャフトをブラケットの
軸受けに乗せます。

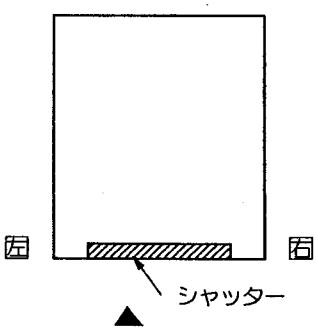




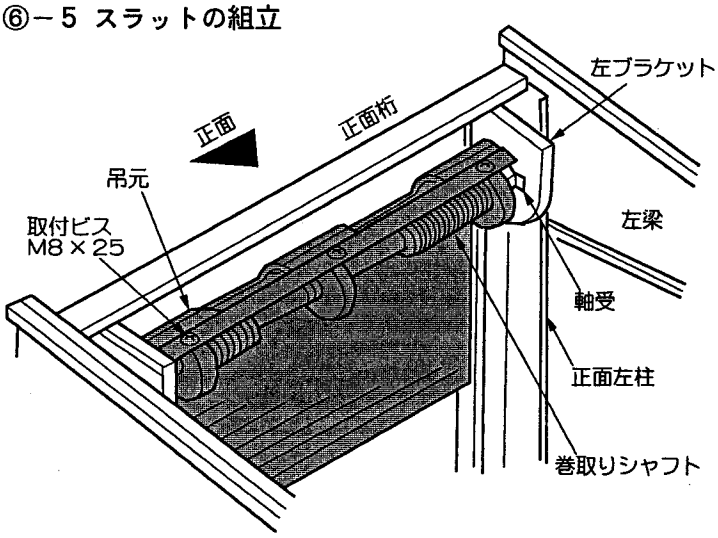
巻取りシャフトの固定



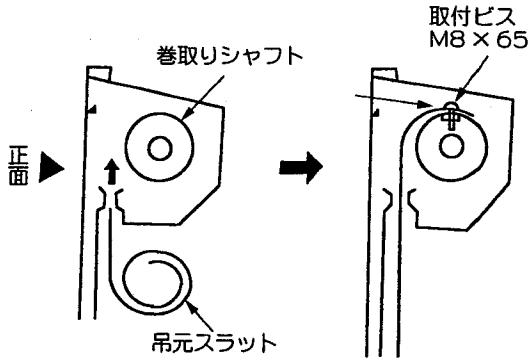
室内側より見る



⑥－5 スラットの組立

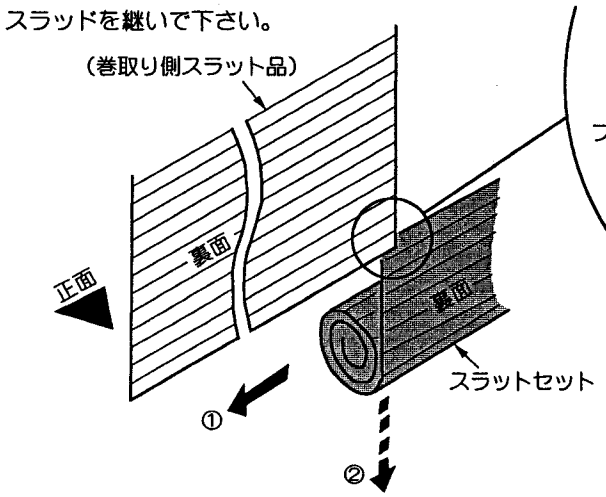


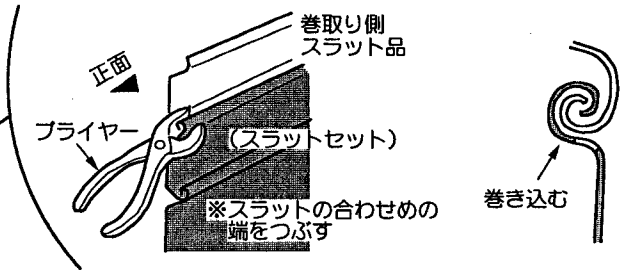
吊元スラットを巻取りシャフトに取りつけます。
下からスラットを差し込み、巻取りシャフトに
ビス止めして下さい。



正面側がホワイト色になります。

スラッドを継いで下さい。

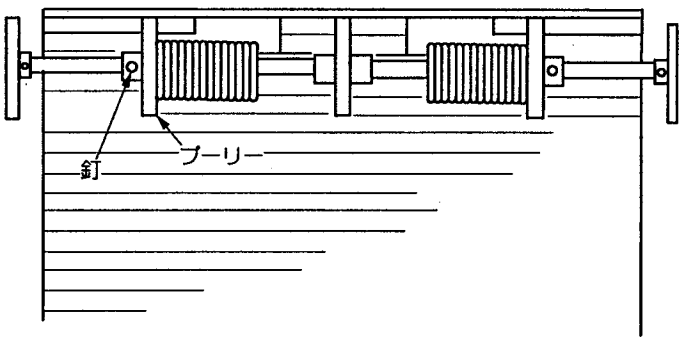




①横からスラットセットを差し込んで継いで下さい。
②巻いてあるスラットセットを下にたらして下さい。
③継いだスラットをずれないようにして下さい。
（スラットの左右の端をつぶしてずれない様にします。）
④他のスラットのずれない事を確認して下さい。

⑥－6 釘を取りはずす

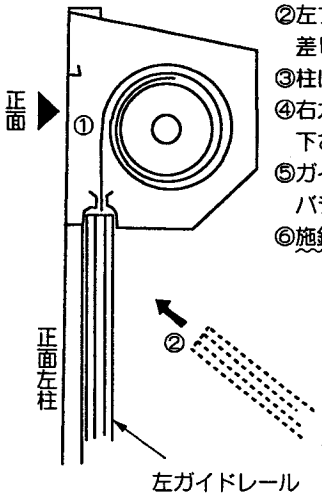
必ずスラットをたれさげた状態でブーリーの
釘を抜き取って下さい。

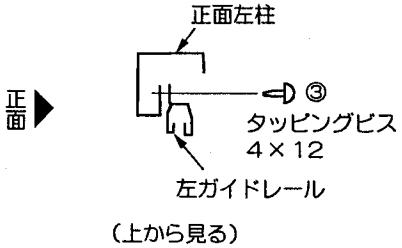


※釘を取りはずした後にスラットを上下させ、
次の事を確認して下さい。
①左右にスラットがずれないか確認する。
②柱の面とそろっているか確認する。

⑥－7 ガイドレールの取りつけ

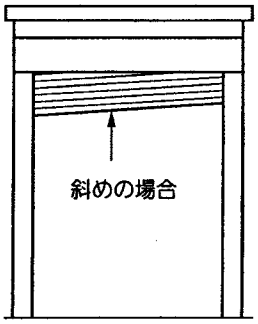
①スラットを上に巻きあげて下さい。
②左ブラケットに左ガイドレールを
差し込んで下さい。
③柱にタッピング止めして下さい。
④右ガイドレールも同様に止めて
下さい。
⑤ガイドレール取付後、シャッターの
バランスを確認して下さい。
⑥施錠できるか確認して下さい。



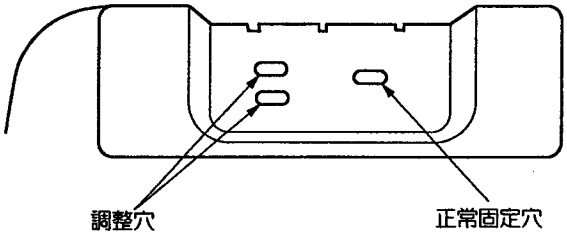


（上から見る）

※シャッターが片下がり（斜め）になる場合



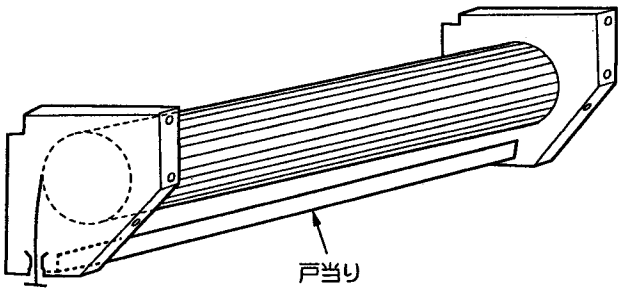
吊元のシャフト取付位置で調整して
下さい。

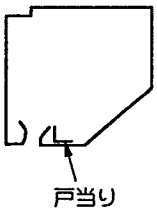


⑦ シャッターケースの組立

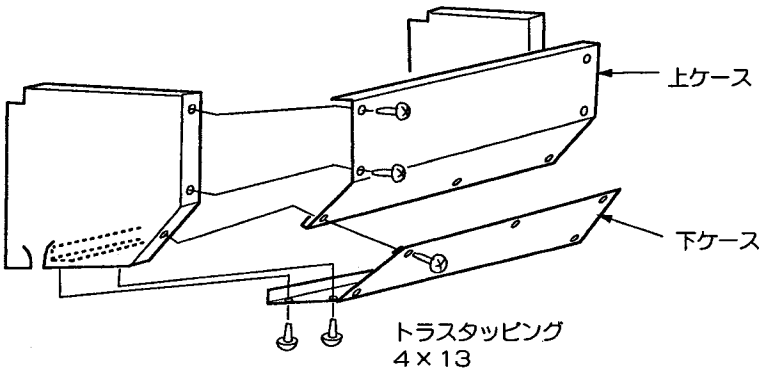
組立は番号順に行なって下さい。

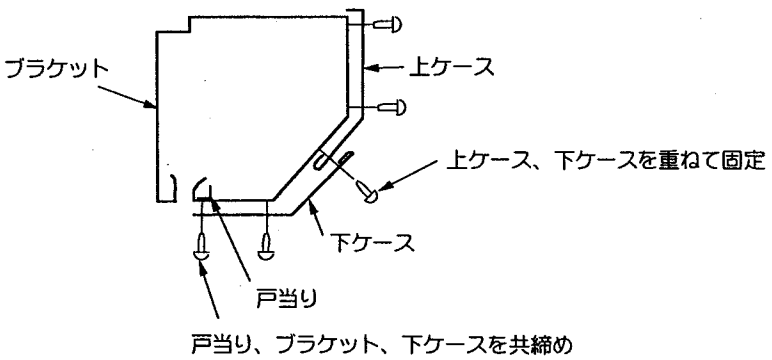
⑦－1 部ラケットへ戸当りを載せます。





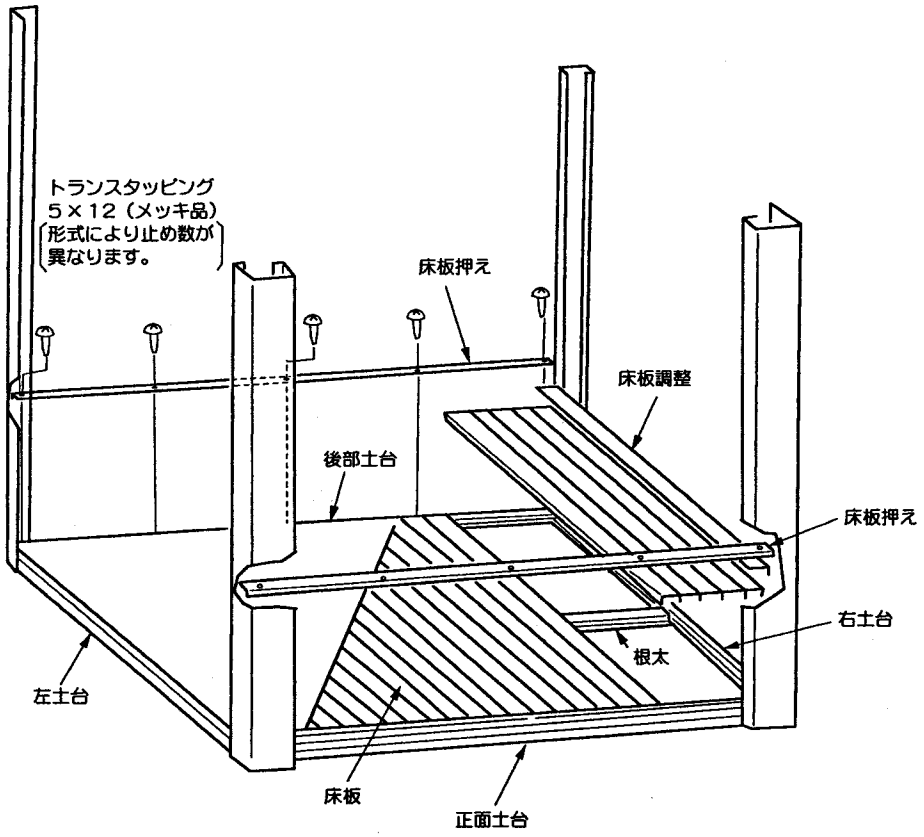
⑦－2 ケースを上・下の順で取付けます。



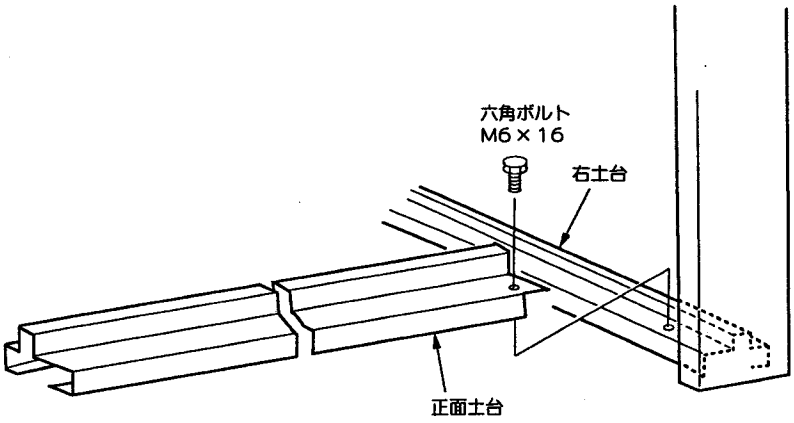


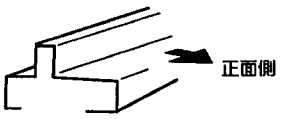
⑧ 正面土台・床板の組立

組立は番号順に行なって下さい。

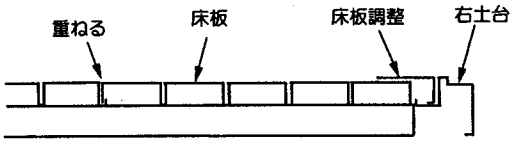


⑧－1 正面土台の組立





⑧－2 床板・床板調整の組立



左から右へ床板を並べます。

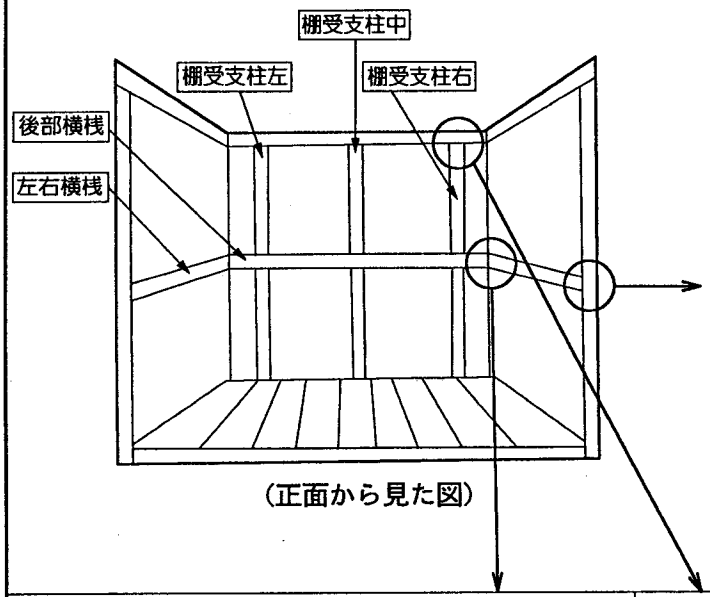
⑧－3 床板押えの組立

5×12 タッピングにて床板・床板調整を床板押えで固定します。

⑨ 横桟・棚受支柱の組立

番号順に組立して下さい。

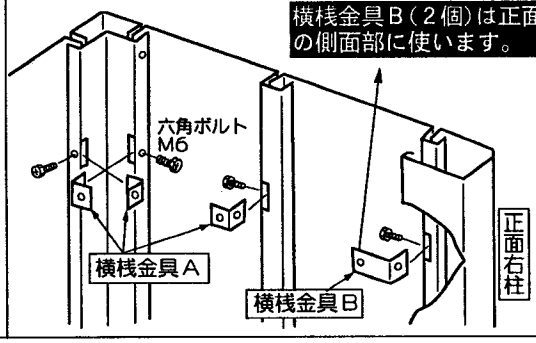
横桟金具 ➡ 棚受支柱左・右・中 ➡ 後部・左右横桟



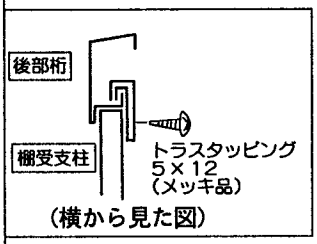
(正面から見た図)

① 横桟金具A・Bを壁パネル中央部の角穴に差し込みビス止めして下さい。

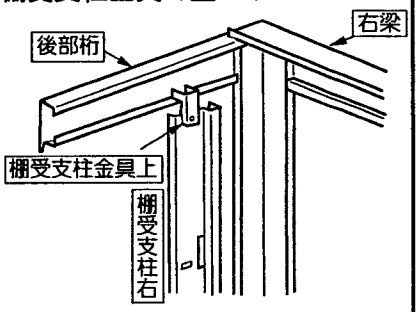
横桟金具B(2個)は正面左・右柱の側面部に使います。



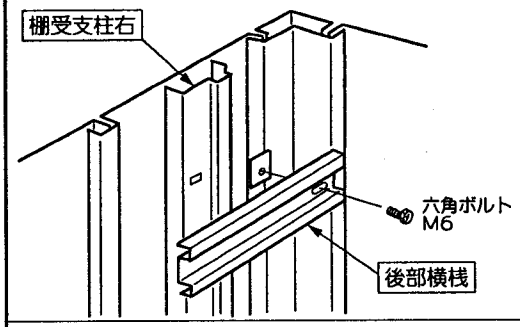
② 棚受支柱左・右・中を棚受支柱金具で壁パネルの内側に取付て下さい。



(横から見た図)



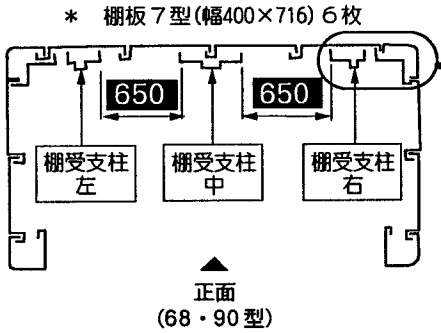
③ 後部横桟・左右横桟の順に横桟金具にビス止めして下さい。
(正面側には横桟はありません)



※棚受支柱の取付位置は下図を参照して下さい。

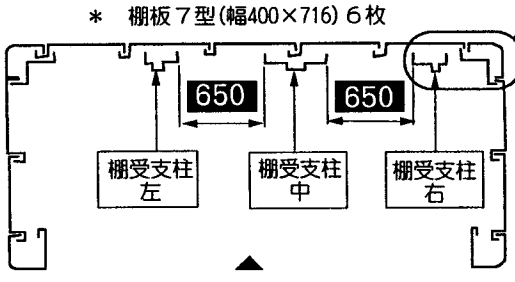
● 棚受支柱取付位置

＊ 棚板7型(幅400×716) 6枚

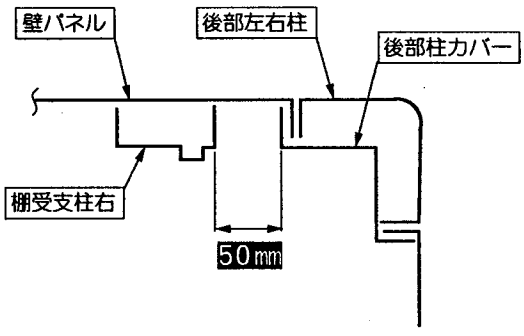


正面
(68・90型)

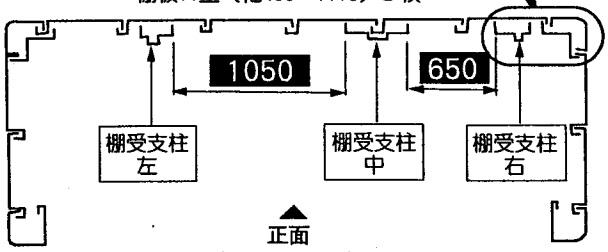
＊ 棚板7型(幅400×716) 6枚



正面
(85・110型)



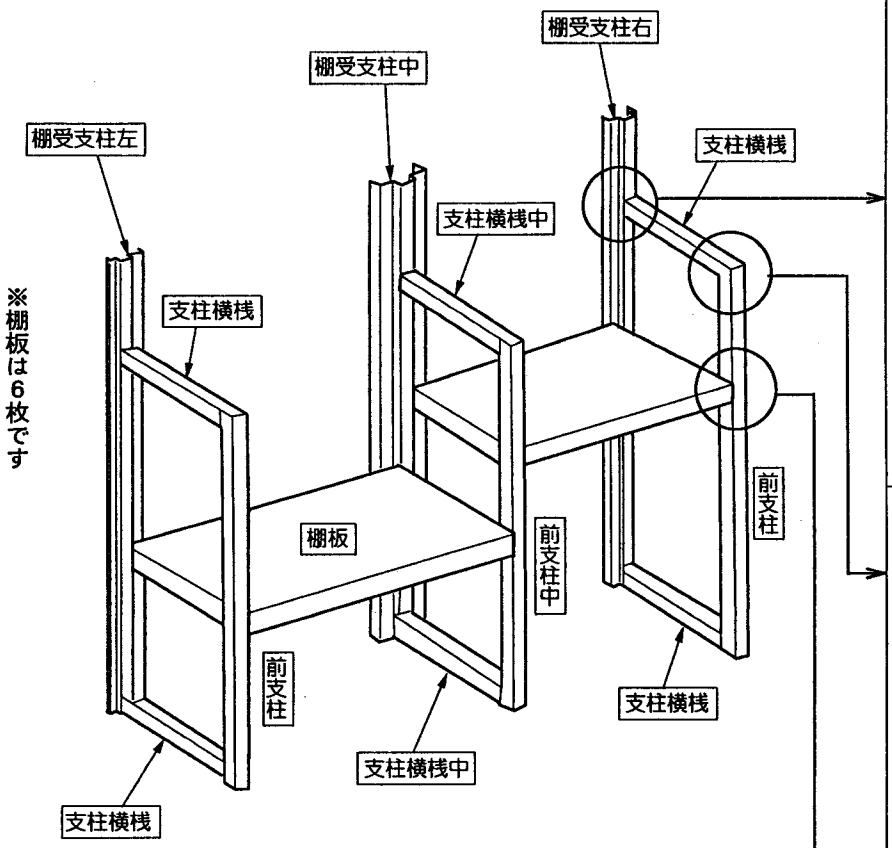
＊ 棚板7型(幅400× 716) 3枚
棚板11型(幅400×1116) 3枚



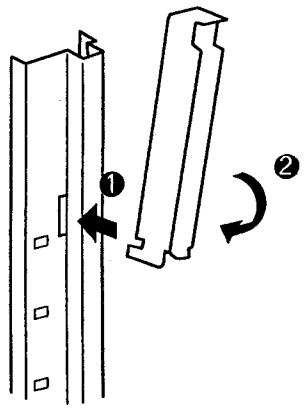
正面
(100・130型)

＊棚受支柱左・右のいずれかを後部柱カバーから50mmの位置に取付けた後、残りの棚受支柱を650mmと1050mmの間隔で取付けて下さい。

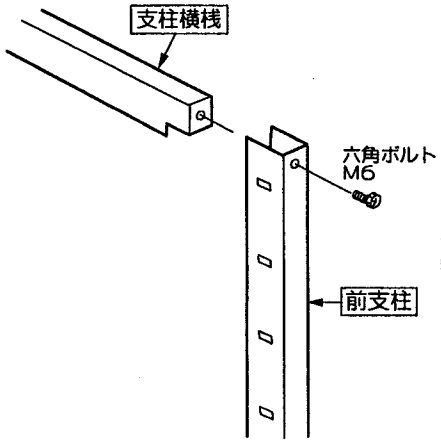
⑩ 棚板の組立



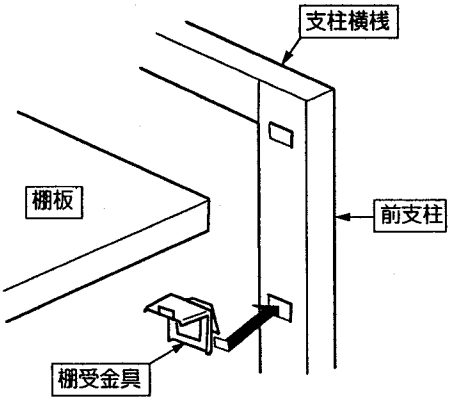
① 支柱横桟を棚受支柱左・右に、支柱横桟中を棚受支柱中の角穴にそれぞれ差し込みセットして下さい。



② 前支柱を支柱横桟の先端に前支柱中を支柱横桟中の先端にそれぞれビス止めして下さい。



③ 前支柱・前支柱中と棚受支柱左・右・中の角穴に棚受金具を差し込み棚板をのせて下さい。



以上で完成です。ねじの締め忘れがないか確認を行って下さい。